



やっぱり本が好き

休み時間や昼休みに図書室をのぞいてみました。すると、数名のお子さんが本に没頭している姿が見られます。旅人をほうふつとさせるその姿に、このお子さんが本から様々な体験を促されていることが伝わってきます。そして、視線を動かしてみると、そこにはPTA新聞で先生方が紹介した本がずらっと並んでいます。図書司書の岩下先生が全部手配してくださったのです。すでに数冊は借りられているようでした。残り僅か！



秋は読書にとってもあう。

最近の世の中は、VUCA（Volatility 変動性, Uncertainty 不確実性, Complexity 複雑性, Ambiguity 曖昧性）の時代と言われることがあります。目まぐるしく変わる予測困難な状況の今日は、正解がない時代ともいわれることがあります。私の時代は、ある意味正解があった「総中流社会」の時代です。会社に入って、終身雇用され、ある年になったら給料も上がって、マイホームを建てて、そして定年退職したら悠々自適に老後を過ごす。もちろん、全員がそうとは言えませんが、ある意味これが正解でした。

何が悪いの？

この生き方だって、私は相当いいと思います。でも、この生き方には一つ大きな欠点があります。それは、前提が成長社会であるということ。高度経済成長期（1955~1973あたり、ちなみに私は1971年生まれです。入ってる~）のような確実な社会の経済成長が前提となり、終身雇用が確立していたという事実。

ただ、この成長は様々な資源を資本に替えるという経済論理が土台になっています。現在使われている資源は、ほとんどが化石燃料であるがゆえに、なくなるということです。だから、この経済論理は必ず破綻する。それが、今かもです。

そこに登場したICT機器などのデジタル革命により、ある意味唯一の正解だったその生き方が、これもある意味否定されていると感じられることが多くなったようです。

これは、悲劇なのか。

いや、これはチャンスなのではないでしょうか。自分なりの生き方を自分で考え、実践し、省察し、さらに変更することができる。そして、その方法も多様にある。多様だからこそ、惑いも大きいし、一人では自分がやっていることの是非にも気づかないことが多い。

正解はなくとも、生き方の羅針盤（ワンピースで言う「ログポーズ」ですね）はぜひとも欲しいところ。もちろんその羅針盤すらも、自分自身で作らねばならないのですが、その羅針盤こそが、リベラルアーツ。読書がそれを支えてくれると私は信じています。

成熟社会と言われる現在、読書が自分なりの納得のいく羅針盤を作り出してくれるのではないのでしょうか。



本日（1-1、4-1は10/2）、担任の先生より通知表を子どもたちに手渡しました。本年度前期の頑張り
が、一人ひとりつづってあります。ご家庭でも、その頑張りをしっかりとお褒めいただくと幸いです。